

船舶事故調査報告書

平成21年11月26日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山 本 哲 也
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成20年11月6日 14時05分ごろ
発生場所	宮城県塩竈市仙台塩釜港塩釜第3区 地藏島灯台から真方位075° 1,510m付近（概位 北緯38° 19.6′ 東経141° 05.3′）
事故調査の経過	平成20年12月5日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか2人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	旅客船 マリンイーグル、19トン 243-37935宮城、松島島巡り観光船企業組合 18.50m×4.48m×2.12m、FRP ディーゼル機関、423kW、平成20年1月
乗組員等に関する情報	船長 男性 27歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成12年9月5日 免許証交付日 平成17年5月19日 （平成22年9月4日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船尾部キール及びプロペラシャフトに曲損、プロペラに欠損及び曲損
事故の経過	本船は、平成20年11月6日13時40分ごろ、船長ほか甲板員1人が乗り組み、不定期航路船として旅客20人が乗船し、所要時間40分の観光遊覧のため、仙台塩釜港塩釜第1区の観光棧橋を出港し、松島港に向かった。 船長は、本船の操舵室右舷側の操縦席に座って手動操舵で操船にあたり、観光案内地点において音声収められている観光案内用MD機器を操作し、同機器の説明に合わせて速力を調整しながら航行した。甲板員は、船内の旅客の様子を見たり、かもめのえさを売るなどしていた。 船長は、本事故発生の2分前ごろ、俗称仁王島と呼ばれる ^{はてつぎしま} 涯続島（以下「仁王島」という。）から沖 ^{おきつぎしま} 続島に至る岩場の南、地藏島灯台から096°（真方位、以下同じ。）1,680m付近で、同岩場付近の2m等深線とその西方に設置されたのり養殖施設に挟まれた幅20～50mの水路に向けて北西方に変針したとき、同水路の北方から南東進する反航船を見た。船長は、左舷船首方にのり網養殖施設を見て同養殖施設との距離を等間隔に保ち、右舷船首方の沖続島を見ながら同島にあまり近づかないようにと思いながら航行した。 船長は、本事故発生の1分前ごろ、地藏島灯台から087° 1,590m

	<p>付近で、左舷対左舷で通過する態勢で近付いた反航船との距離を広げようとして沖続島に寄せる針路とした。</p> <p>本船は、約10ノットの速力で航行中、沖続島の南西方50mにあたる、地蔵島灯台から075°1,510m付近（仙台塩釜港塩釜第3区）において、船尾船底が暗岩に乗り揚げた。船長は、転倒した旅客はなく、負傷者がいないことを確認し、14時05分ごろ運航管理者に連絡した。</p> <p>乗揚後、本船は、自力航行して到着予定時刻より約20分遅れた14時40分ごろ松島港に到着し、翌日、造船所まで自力航行し、上架された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 西、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、下げ潮の末期に沖続島に接近した針路で航行し、同島南西方の暗岩に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、左舷対左舷で通過する態勢の反航船との距離を広げようとして沖続島に接近した針路で航行したのと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、仙台塩釜港塩釜区において、仁王島から沖続島に至る岩場とその西方に設置されたのり養殖施設に挟まれた水路を北西進する際、船長が反航船との距離を広げようとして沖続島に接近した針路で航行したため、沖続島南西方の暗岩に乗り揚げたことにより発生したのと考えられる。</p>	